

講義名	基礎技能B（総合）			授業形態	
担当教員	富岡 敦基	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

【目的】
基礎技能Bは、公務員を目指す学生を対象とする「公務員プログラム」に位置づけられる公務員試験対策科目である。3年生対象の基礎技能B（総合）は、1年生後期から2年生後期まで基礎技能Bで学んだ教養試験対策の分野の復習を促し、1年後に待つ公務員採用試験までの期間を認識し、計画的に勉強する姿勢の再構築と教養試験の必要性と重要性を自覚することを目的とする。授業内では初回と比較して最終回での理解度ならびに平均点を20%アップすることを目標とする。なお、公務員試験合格には、当授業を履修するだけでなく、自学自習が前提であることは言うまでもない。

【内容】
基礎技能B（総合）では、公務員試験分野で最も対策が必要な「数的推理」「判断推理」「資料解釈」を復習し、エントリーシートの書き方や面接の心構え、論文、2次試験対策のポイントを学ぶ。小テスト（5問）を第3回、6回、9回、12回、15回に実施する。

【意義】
講師との対話を通じて進められる本授業の意義は、受講生が、本学がディプロマポリシーで掲げる「論理的思考力」「情報収集力」「情報分析力」を着実に身につけることができることにある。また、公務員という明確の目標に向かって、コツコツと宿題をこなしていくことによって、「ネアカのひのびへこたれず」の精神を養うことができることにも大きな意義がある。

到達目標

- ・公務員採用試験に向けて教養科目の核となる『数的推理』『判断推理』『資料解釈』を解くことができるようになる。
- ・近年重要視されている2次試験の内容を知り、自身の志望動機や面接に向けての基礎知識を習得することができるようになる。
- ・毎週の宿題と講師のアドバイスを通じて、自学自習の習慣を身につけることができるようになる。

なお、以上の目標に到達するため、本授業は講師と受講生のコミュニケーションを重視する。そのため、教室における対面授業で実施する。

提出課題

- ・毎授業時に宿題（練習問題）を出す。
- ・公務員試験勉強には日ごろの自習が求められる。宿題を通じて、自分のペースに合わせた学習習慣を身につけてもらいたい。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

宿題提出後、授業中に講評・解説を行う。
第3回、6回、9回、12回、15回に実施する小テストに関しては各個人の点数、クラスの平均点をFBシートで返却する。

評価の基準

小テスト（5回×5問＝25問）[50%]と受講態度（宿題の提出[15回]等）[50%]の割合で評価する。

履修にあたっての注意・助言他

- ・試験期間に試験は行わず、成績は授業期間内で全て評価される。毎回出席すること、受講態度が悪い場合には、減点する。
- ・最初の授業時に学修する科目のテストを行い、どれくらいの問題が解けるかや苦手範囲を確認する。
- ・志望する職種・自治体について事前に調べ、勉強だけではなくエントリーシートや論文、2次試験対策にも取り組むこと。

教科書

.数的処理 警察官・消防官・市役所クラス対応。	ワークアカデミー公務員講座	ワークアカデミー	1980		
-------------------------	---------------	----------	------	--	--

参考図書

.なし。					

その他

必要に応じて資料を適宜配布する。

授業計画

1. 公務員ガイダンス・数的推理
2. 数的推理
3. 数的推理
4. エントリーシートの書き方
5. 数的推理
6. 数的推理
7. 数的推理
8. 判断推理
9. 判断推理
10. 教養論文対策
11. 判断推理
12. 判断推理
13. 面接について
14. 資料解釈
15. 資料解釈

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：それぞれの回の実施内容（全体把握）を予習すること（2時間程度）。
復習：講義内で実施した範囲の問題演習を繰り返し、3回以上は解くこと（2時間程度）。
公務員採用試験対策においては、問題演習を繰り返し解くことが重要です。自学自習をすることで、授業で学んだ知識を定着させましょう。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業の目標は、本学のディプロマポリシー（5項目）と以下の点で関連する。
・公務員採用試験に向け、教養科目の核となる『数的推理』『判断推理』『資料解釈』を解くことができるようになる。
・「知識を知識に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の育成
・毎週の宿題と講師のアドバイスを通じて、自学自習の習慣を身につけることができるようになる。
「自主・自立の精神を持った人材」の育成

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

理解度確認表・レスポンスを活用し、不明点や確認事項を学生と講師間で共有する。

実務経験の有無及び活用

備考
